

長畝ふるさと通信



【2023年5月号】

■ 実証実験いろいろ・・・

● ドローンで直播

来年からドローンを本格的に導入する予定ですが、それに先立ってドローンで直播栽培をしました。通常なら種もみから苗を育てて、その苗を田んぼに移植するのがこれまでの「田植え」でしたが、直播は種もみを直接田んぼに撒いてしまいます。つまり、苗を育てることもなく、育苗ハウスも不要となり、その間の人件費も全くかからないという画期的な技術です。もちろん田植機も必要なく、30a当たり1時間かかっていた田植作業もたったの5分で終わってしまいます。人手不足と経費節減が一気に解消するわけですが、問題は収量が安定しないこと。芽が出る前の種もみから田んぼで栽培するわけで、気温が低ければ発芽しませんし、苗の初期生育が悪ければその後の収量まで影響するわけです。当日はなぜか佐渡市長も視察に来て、新聞やテレビなどマスコミにも紹介されてしまい、こっそりと実験するはずがちょっとした騒動になりました。



● 脱プラコーティング

一発元肥のプラスチックコーティングが海の環境破壊を進めていることは以前お伝えしましたが、それに代わるコーティング材の実証実験に田んぼを提供しています。写真の肥料はプラスチックの代わりに堆肥などの有機溶剤をコーティングしたもの。ほかにもプラスチックだけ「より分解しやすい」溶剤であったり、穂肥成分をコーティングせずに遅れて溶解させる溶剤であったりと、様々な資材で実験します。全農をはじめどこの肥料メーカーもSDGs対応に苦慮しているようで、結果コストを負担するのは我々生産者という何だか納得いかない始末です。プラスチックによる海洋汚染は世界的な問題ではありますが、全ては人間の便利が優先された結果であり、後戻りできない問題ではないでしょうか。



■ 田植は27日で終了

5月1日から始めた田植えは27日で終了しました。年々作業に出てくれる人が減ってきて、今年も人集めが大変でした。2040年には団塊ジュニア世代が65歳になりあらゆる職種で人手不足になるそうですが、農業界はもっと早く深刻な事態になりそうです。ハローワークには新採用の募集を常時出していますが全く反応がなく、問い合わせが来るのは外国人労働者ばかりです。「私はベトナム人です。キツイ仕事でも何でもやります」と若い女性のお手紙付きの履歴書が届い



たり、「昨今の若い日本人の働き手の減少で苦勞している企業様に外国人労働者をご紹介します」というメールが来たり…。日本の労働者はどこへ行ってしまったのか…。

田植機に乗っている彼も東京からの移住者で、元は新聞カメラマンです。現在は組合の田んぼ5haを管理しながらトキの写真を撮りまくる生活をしています。うちのカレンダーにも彼の写真が掲載されています。

● 思わぬ助っ人も来た

3年前ワーキングホリデーで組合で働いてくれたドイツ人のポール君から「ボクの友達が今日本に行っていて、是非佐渡で農業体験がしたいと言ってるけどどう？」と急にラインが来たと思ったら2日後には「明日佐渡に行くからよろしくね」となり、我が家で面倒を見ることとなりました。彼の名前はジョジョ、本名はヨハネス何とかという長い名前らしい。現在世界中を旅して歩いている。滞在はたったの2日でしたが、佐渡の田植を満喫させてやりました。日本語はほとんど話せず、会話をもっぱら携帯の翻訳アプリを使って行いましたが、何とかなるもので現代のテクノロジーに感心しました。携帯さえあればどこへでも迷うことなく行くことができ、言葉が分からなくても会話に不自由がないんですか

ら…スゲー世の中です。夜はビールを飲みながら世界旅行の話やらウクライナ戦争の話やら家族の話など、半分は意味が分からなかったけど楽しい時間を過ごしました。ボクもあと40年若かったら世界一周旅行を試みたいと思った次第です。



■ 自然栽培

佐渡キッズ生きもの調査隊の田植をしました。この田んぼは子供たちの環境学習のために10年前から自然栽培(肥料も農薬も一切使わず、自然の力だけでコメを作る栽培方法)を行っており、今年の隊員は総勢47名で、賑やかに田植えを楽しみました。素足で田んぼに入ることに抵抗



がなく泥の感触を味わいながら一生懸命苗を植えていました。子供たちには「理事長と呼べ」と言っていますが全く威厳は無く、「早く苗持ってきてー」と催促されながら田んぼを何往復もさせられて疲労困憊でした。

作業終了後は昨年この田んぼで収穫されたおコメをヌカ窯で炊いて、おにぎりにして食べました。火加減を失敗して「メッコ飯」になってしまいましたが、それでも田んぼを眺めながら頬張ったおにぎりの味は格別で、激しい争奪戦が展開されました。子供たちも自然栽培です。



■ 令和5年産米、これから大事に育てます

田植は何とか終わりましたが、これから草刈地獄が待っています。気温が高く適度に雨が降ったおかげで苗の初期生育も順調ですが、同時に畔草も繁茂しており当分の間はこいつらとの格闘になりそうです。今年は梅雨が長く、夏は低温だとか言われていますがどうなりますか。

